

熊大病院ニュース

第31号

Kumamoto University Hospital

熊本大学病院 広報誌



特集P1~ P2

コロナ禍において 熊大病院が できることは

～地域医療を守るために～

病院からのお願いP2

新任役職者紹介P3

診療科・部門紹介P4

***総合診療科**

***救急部**

知っ得! 納得! Q&AP5

新生児スクリーニング 検査ってなに?

看護部だよりP6

特定行為研修 修了生の活動

総合案内裏表紙

ご自由に
お取りください

TAKE FREE

2021年 秋号

本院の理念と方針及び 患者さんの権利と責務

Kumamoto University Hospital Medical Policy.

理念

本院は、高度な医療安全管理によって、患者本位の医療を実践し、医学の発展及び医療人の育成に努め、地域の福祉と健康に貢献する。

方針

- 高度な医療安全管理体制による安全安心で質の高い医療サービスの提供
- 患者の希望、期待、要求を尊重する医療の実践
- 先進医療の開発・推進と優れた医療人の育成
- 地域社会に貢献できる医療・防災の拠点形成

患者さんの権利

- 個人の尊厳と意向が尊重されます。
- 良質な医療を公平に受ける権利があります。
- 十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
- ご自分の意思で医療を選ぶことができます。
- ご自分の病状や治療方針について、他の医療機関の医師に意見(セカンドオピニオン)を求めることができます。
- 小児や高齢の方、意思を表出しづらい方も、適した方法でコミュニケーションが図られます。
- プライバシーや個人情報保護されます。

患者さんの責務

- ご自分の健康状態について正確に伝えてください。
- 治療に積極的に参画してください。
- 社会のルール、本院の規則を守ってください。
- 迷惑行為を行わないでください。
- 医療費を遅滞なく支払ってください。



病院敷地内 全面禁煙のお知らせ

皆様のご理解とご協力をお願いします。

熊本大学病院の建物内、敷地内(含む中庭、駐車場)および病院周辺の道路は全面禁煙です。喫煙を確認した場合は、来院者には退去勧告、入院患者さまには退院や転院を勧告いたします。禁煙へのご理解とご協力をお願いいたします。



ご寄附のお願い



熊本大学病院では、若手医師をはじめとした医療人の教育・学術研究の支援並びに医療機器等の整備、大学病院の管理運営等に資するため、企業や個人の皆様の篤志に基づいて寄附金を受け入れております。またご寄附をいただいた場合、税制上の優遇措置を受けることができます。

詳細は熊本大学病院ホームページをご覧ください。

<https://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp/kuh/kifu.html>

【お問合せ】熊本大学医薬保健学系事務課医学事務チーム研究支援担当 TEL096-373-5658



スマホ・携帯電話の方はこちらから



コロナ禍において 熊大病院ができることは ～地域医療を守るために～

【監修】 熊本大学病院 病院長 馬場秀夫



全国的に新型コロナウイルス感染症が流行し始めて約1年半。流行の波を繰り返しながら、いまだに収束に至らない状況の中、地域医療を守るために「熊大病院」としてこれまで取り組んできたこと、そしてこれからのことを馬場病院長の思いとともにお伝えします。

熊本県・熊本市との連携

本院は、**熊本県・熊本市新型コロナウイルス感染症対策専門家会議座長**として馬場病院長が、また、**新型コロナウイルス感染症対策熊本県調整本部の本部長**として**呼吸器内科長**が就任しており、熊本県の今後の対応において医療的見地から意見を述べたり、コロナ陽性患者の地域受入に関する調整役を担うなど、それぞれ地域医療体制の維持のため中心的役割を担っています。

「県内の感染状況や、それを受けての県・市の対応について毎週県が発表しています。感染対策において、一つ大切なことは、その情報を知ることです。

是非皆様も新聞、ホームページ、ニュースなどに関心をもってください、今やるべき感染対策を知って、見て、行動していただければと思います。」

(馬場病院長)

また、県・市の会議への参画だけではなく、県や市

との強いパイプにより「熊大病院」で何ができるかを考え、地域における最後の砦としての役割を果たしています。

「妊産婦や小さなお子様をお持ちの方、あるいは基礎疾患を抱えた方は、常に大きな不安を抱えながら過ごしていらっしゃるかと思います。そのような皆様を守っていけるよう、周産期及び小児医療について、県内の医療体制の調整役を担っています。また、**MFICU(母体胎児集中治療室)**、**NICU(新生児集中治療室)**、**小児病棟**、**ICU**、**中等症専門病床及び抗体カクテル療法**など、ニーズに応じた感染症患者受入れ体制を整備し、地域における幅広い領域において治療活動を行っています。」

熊本県内・県外への医療職員の派遣

本院では、昨年2月の神奈川県へのDMAT派遣の他、熊本県内の医療体制が逼迫し始めた昨年の4月から継続的に、医療機関宿泊療養施設に医師、看護師等を派遣しています。これまで医師25名、看護師等89名を派遣しています。(9月30日現在)

「大学病院として高度な医療を受ける必要がある患者様を守っていく一方で、地域の医療崩壊を防ぐため、多くの医師や看護師の理解、協力を得て、県内の感染症指定医療機関への派遣を行いました。」

本院では、県内だけではなく、県外へも多くの医療職員を派遣しています。政府の派遣要請に応え、医療の逼迫する深刻な地域(大阪府、兵庫県、沖縄県及び東京都)に合計17名の看護師を派遣しました。



「派遣から帰還された看護師の皆さんとお話をさせていただく機会があったのですが、皆さんの使命感を強く感じました。きっと皆さんのスキルアップに繋がる経験だと思いますので、是非その貴重な経験を地域医療にも活かしていただきたいですね。」



【写真】(上)大阪府・兵庫県派遣慰労会 1列目中央＝熊本大学小川学長
(下)沖縄県派遣慰労会 ※撮影時のみマスクを外して撮影しております。

一般市民へのワクチン接種及び副反応外来の開設

感染拡大防止の切り札として政府も推進しているワクチン接種。本院でも、今年の3月から段階を追って、医療従事者等のワクチン接種(3月～)、県内唯一の専門的医療機関として「ワクチン副反応外来」の開設(3月～)、一般市民へのワクチン接種(熊本大病院内100名/日)(6月～)、熊本市の開設する大

規模集団接種会場(熊本城ホール)への研修医を含む医師派遣(6月～8月)を行っており、現在では、大学が職員や学生に対して実施する職域接種に会場提供や医師・看護師の派遣による形で協力を行っています。

「大規模集団接種には、多くの研修医にも従事してもらいました。病院内における臨床だけでは学べないことも多く学んでもらえたのではないのでしょうか。また、一般市民へのワクチン接種は引き続き実施していきます。ワクチンの入荷状況が不安定なところはありますが、できる限り県・市とも協力して接種率の向上に努めていきたいと思っています。」

これからについて

これからも熊本大病院は、地域とともにコロナに向き合っていきますが、最後に皆様へ馬場病院長からのメッセージです。

「第5波は収束しましたが、今後、年末年始にかけ人流が増える時期に第6波の到来が予想されています。希望者のワクチン接種が11月には終了すると見込まれていますが、ワクチン接種を受けていても経時的に抗体価が低下するため、3回目の接種も検討されています。今後もしばらくはコロナ禍が続くと予想されるため、一人ひとりが感染予防に努めることが重要です。」

かかり方、変えよう!



みんなの医療をまもるために、
お願いがあります。

気軽に相談できるかかりつけ医をもちましょ! →
夜間や休日診療は、重要な病のためがあります! →
時間外の急病は、119番に電話! →
時間外の子ども急病は、11900番まで! →
平日の夜中、お休みのことは、病室まで受診! →

病院からのお願い — 提供する医療の質や安全を確保するために —

病状説明等は、原則として

平日の診療時間内

とさせていただきます。

医療スタッフの健康と医療安全を守るため、
患者・ご家族の皆様の、ご理解とご協力をお願いします。 熊本大学病院長

ボランティア活動員募集

●活動時間

月曜日～金曜日(休日を除く)8:30～17:00
※回数、時間はご相談に応じます。
(週1回、2～3時間の活動でも可能です。)

●ボランティア内容

外来でのお世話、受診手続きの説明等、診療科等への案内、車椅子の手配と介助、幼児の世話、通訳、手話通訳、視聴覚障害者への受診付添、自動再来受付機等の操作案内など

スマホ・携帯電話の方はこちらから



【お問合せ】熊本大学病院 医療サービス課 外来担当 TEL096-373-5557 <https://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp/kuh/volunteer.html>



総合診療科 教授

松井邦彦

2021年3月1日付で、熊本大学病院総合診療科科長/教授を拝命しました、松井邦彦です。一年前には、当院救急・総合診療部部長を拝命させていただいておりましたが、院内の組織替えで救急部が独立し、内科部門の一つとして総合診療科を設置していただいたことで、新たな出発となりました。

専門診療科が並ぶ大学病院の中で、総合診療科がどのような診療を提供するのか、多くの方々にとって分かりづらいのではないかと思います。私たちが当院で提供

するサービスは、臓器や疾患にとらわれず、横断的な成人への内科診療、といったことになるでしょうか。分かりやすく言うと、様々な症状のため、どの診療科を受診すべきかわからない、といった方々を最初に診察させていただく、ということになるのかもしれませんが。大学病院の規則上、紹介状をお持ちいただき予約が必要になりますが、受診を希望される場合は、かかりつけ医の先生にご相談ください。毎日午前中に、外来診療を行っています。どうぞよろしくお願いいたします。



救急部 教授

入江弘基

2021年3月1日付で救急部の教授を拝命しました入江弘基です。

私は、福岡県飯塚市の出身で、久留米大学附設高等学校を経て、熊本大学を1995年に卒業しました。整形外科に入局後、手外科医を目指して研鑽を積んできました。2008年に、大学病院に救急部門の拡大のため、各診療科から6名の専従医が出向し「救急外来」が設置され、救急外来での対応を行ってきました。以後、熊本大学病院の救急部門として、救急患者の受け入れ及び初期研修医の救急研修を受け持ってきました。本年3月「救急・

総合診療部」が「救急部」と「総合診療科」に改組され、現在は救急外来に特化して対応しております。

特定機能病院として高度な医療を提供するため、各診療科と連携をとりながら、「最後の砦」となる救急医療を提供できる体制を強化していきたいと思っております。また、熊本県全域では、救急専門医が少ない状態のため、救急救命センターとも協力を行い、大学病院で救急医の育成を行い、県内をカバーできる救急のネットワーク作りを努力して参ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



産科・婦人科 教授

近藤英治

2021年6月1日付で産科婦人科学講座の教授を拝命いたしました。

私は大阪府泉南郡阪南町という海に見える田舎町で育ち、鹿児島の中学校で学び、1998年に京都大学医学部を卒業しました。前任地の京大病院では総合周産期母子医療センターの長として母体救急搬送受け入れの陣頭指揮を執ってきました。熊本でも地域の分娩取り扱い施設と連携し、オール熊本でお母さんと赤ちゃんを全力でサポートしたいと思います。また、指導者はオールラウンダーでなくてはならないという恩師の勧めで、

米国Duke大学留学中は卵巣癌幹細胞の研究を行い、臨床では婦人科腫瘍専門医、ロボット専門医、内視鏡(腹腔鏡手術)専門医として主に婦人科癌の治療に携わってきました。7月より熊本大学も腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術の施行施設に認可され、婦人科癌患者さんに低侵襲な治療を提供できるようになりました。大学の使命は最善の医療を提供すること、次世代リーダーの育成です。多くの若手医師が自然と集い、臨床・研究ともに世界と渡り合うリーダーを多数輩出できる教室を目指してまいります。

総合診療科



▲ 外来診療棟

高度先進医療を提供する大学病院の中で、総合診療科は、以下のような診療を提供しております。

身体のだるさ、臓器の問題なのか明らかでない場合や多彩な症状で、受診する診療科が明らかでない患者さんを、総合的に診療し、必要に応じて専門診療科

へ紹介したり、または、継続して診療をいたします。

診療科の特性として、身体的な問題のみならず、心理的、社会的要因やそれぞれの問題に可能な限り対応する全人的な診療を実践しております。

また、その様な総合的な診療能力を養成するために、医学生や研修医・専攻医の実習・研修も実践を通じて、熊本県の地域医療に求められる医療と人材を提供し、地域医療に貢献していくことを目指しております。

今後とも、総合診療の専門性を発揮して、地域に根ざした全人的医療の実践、大学病院の高度先進医療を補完し、内科／総合診療部門の医師の育成、そのための研究実践という使命を追求して参りますので、より一層のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

救急部



令和3年3月より、組織改組に伴い「救急部」として、中央診療棟1階の時間外出入り口横にある救急外来で救急車の受け入れを行っています。初期治療室は現在6ベッド(内2ベッドは、本年7月に陰圧装置を設置して増設)を使用して、新型コロナ

ウイルス感染症対策をした上で、院内・院外の救急疾患の患者さんの対応を行っています。また、院内では、急変疑いの患者さんに対応するための「RRS(Rapid Response System)」および院内コールの急変対応にも全例対応しています。

現在、救急専門医2名、各診療科からの応援医師により、2交代制の勤務体制で、24時間365日の受入を行っています。大学病院は教育機関でもあるため、救急診療の現場では、研修医と上級医の組み合わせで、診療の質を担保しながら、個別指導を行う診療体制としています。

専門性の高い大学病院の中で、横断的に各診療科と連携をはかり、患者さんのために安全安心で高度な医療を提供できるように研鑽を重ねてまいります。



「新生児スクリーニング検査ってなに？」

新生児スクリーニングは全ての新生児が対象となる検査です。先天性の疾患の有無を調べ病気を早く見つけて治療することで発症を未然に防ぐことを目的として、昭和52年から国内で開始されました。開始当時は5つの疾患が対象でしたが、タンデム質量分析の導入など技術の進歩によって現在は20疾患あまりに対象が拡大され公費で受けることができます。

Q どのような検査内容? A

両親から同意が得られた生後4日～6日の新生児から少量の血液を採取し、それを検査用のろ紙に染み込ませたものを乾燥させ、郵送でKMバイオロジクスへ送付し検査が行われます。KMバイオロジクスでは熊本・福岡・佐賀などの自治体から依頼を受け年間約6万5千人の検査が行われています。血液が染み込んだろ紙の一部をパンチで切り取って検査をしています。



熊本県では熊本大学病院小児科にも検体が送られ、脊髄性筋萎縮症(SMA)と重症複合免疫不全症の定量PCRを用いた新生児スクリーニングの研究が始まっています。



Q どんな病気が見つかるの? A

新生児スクリーニングで見つかる疾患は内分泌疾患と先天代謝異常症があります。

内分泌疾患としては甲状腺機能低下症や副腎皮質過形成症が見つかります。成長がうまくいかない、元気がないなどの症状が出てくる前に見つけて治療することで、発症を未然に防ぐことができます。

先天代謝異常症の場合は毒物が体内に溜まり嘔吐があったり意識がなくなったりするなど危険な症状が現れますが、新生児スクリーニングで見つけてそれぞれの疾患に応じた特殊ミルクや薬剤で治療することで発症を未然に防ぐことができます。

Q 脊髄性筋萎縮症(SMA)ってなんですか? A

SMAは運動神経細胞生存遺伝子が機能しなくなることで全身の筋力が低下する病気です。一番多いI型は生後6か月までに発症し治療しなければ2歳までに亡くなる難病です。

2020年5月に遺伝子治療が保険適用となり1回の治療に約1億7千万円の薬価がついて話題を呼びました。熊本では産婦人科の先生方にご協力いただき2021年2月からSMAの新生児スクリーニングが始まりました。2021年4月に国内で初めて新生児スクリーニングでSMAを発見し、当院のチームが生後1か月で遺伝子治療を行い、現時点での経過は順調です。



特定行為研修修了生の活動

「特定行為」とは

特定行為に係る研修制度はチーム医療を推進し、看護師がその役割をさらに発揮するために2014年に創設されました。

当院は2020年2月に看護師の特定行為研修を行う指定研修機関として厚生労働省より指定を受けました。受講募集にあたり「専門性を高めたい、アセスメントや判断力の強化を図り患者の回復過程を支援したい」という動機から院内外7名の看護師が集まりました。各職場の協力を得て、働きながら研修を受け、特定行為研修の修了者が院内で5名誕生し、2021年7月から実践を開始しています。

看護師による特定行為とは、実践的な理解力や判断能力のほか、高度な専門知識や技術による特定の医行為(特定行為)であり、保健師助産師看護師法による「診療の補助」にあたります。医師の指示の下、特定行為研修を修了した看護師が、手順書に基づき実施します。例えば、研修を受ける前は患者の病状や変化を医師にその都度報告し、判断や指示を仰いでいたものが、あらかじめ医師が作成した手順書をもとに特定行為を実施できます。当院では、研修修了者が15項目(表1)の特定行為を実践しています。

特定行為研修修了生は院内の5部署に所属し活躍しています。心臓血管外科病棟では、今までは医師が施行していた患者様のドレーン抜去やCVカテーテル抜去を主に行なっています。さらに特定行為「電解質輸液の投与量の調整」では、手順書に基づき、脱水状態にある患者様に対し、「療養上の世話」の視点で必要性を考え、『輸液』を実施しています。今まで医師しか実施できなかった行為を速やかに特定行為として患者様に提供できることは、患者様の回復過程の促進や満足度の向上に繋がると考えます。看護師は、患者様にとって一番近い存在です。特定行為研修の修了生として、高度な専門知識や技術を持ち合わせ、チーム医療の中で患者様の回復を促進できるように今後も努力して参ります。

表1 当院で実施できる特定行為 15項目

- ①経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整
- ②侵襲的陽圧換気の設定の変更
- ③非侵襲的陽圧換気の設定の変更
- ④気管カニューレの交換
- ⑤低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定及びその変更
- ⑥胸腔ドレーンの抜去
- ⑦腹腔ドレーンの抜去
- ⑧中心静脈カテーテルの抜去
- ⑨末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入
- ⑩創部ドレーンの抜去
- ⑪直接動脈穿刺法による採血
- ⑫持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整
- ⑬硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整
- ⑭持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整
- ⑮持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整

看護師 特定行為研修 受講生募集

地域医療の質向上に貢献することを目的として、院外からも積極的に受講者を募集しています

定員 **10名**※ 募集時期 **11月~1月末**(予定)

ご応募お待ちしております!

<http://kumamoto-u-kango.com/training/>

スマホ・携帯電話の方はこちらから



※うち5名は熊本大学病院に勤務する看護師に限る。

総合案内

- ① 受付時間 初診 8:30~11:00 / 再診 8:30(再来受付機 8:15)~16:00 ※再診受付開始は、当日最初の診察・検査の予約時間の1時間前からです。
- ② 予約受付時間 8:30 ~ 17:15
- ③ 診療時間 8:30 ~ 17:15
- ④ 休診日 土曜、日曜、祝日、振替休日および年末年始(12月29日 ~ 1月3日)
- ⑤ 診察日 ◎印(外来診療日参照)の日は初診も再診も行なっております。
- ⑥ 通常の診療以外に次の相談、
 検診を行なっております。
 - 禁煙外来(呼吸器内科)
 - セカンドオピニオン(全診療科)
 - 乳がん検診(乳腺・内分泌外科) ※現在休止中
 - 検査カフェ(中央検査部)
 - 脳ドック(脳神経外科)
 - 不妊相談(産科)

外来診療日

※2021.10.01 現在

- 診療日一覧(初診・再診◎、再診一再、特殊再診二特再、休診日一休)
- 全診療科完全予約制、初診は紹介状が必要です。
- 脳神経外科の初診はCTもしくはMRIのCD-ROMも必要となります。
- 再診受付開始は、当日最初の診察・検査の予約時間の1時間前からです。

		診療科名	月	火	水	木	金	
外来診療棟	1階	A 循環器内科	◎	◎	◎	◎	◎	
		心臓血管外科	休	◎	休	◎	休	
		総合診療科	◎	◎	◎	◎	◎	
	B	脳神経内科	再 AMのみ	◎	◎	◎	◎	
		整形外科	休	◎	休	◎	◎	
		脳神経外科	◎	休	◎	休	◎	
		麻酔科・緩和ケア	◎	休	◎	◎	再	
	C	小児外科	◎	休	◎	休	◎	
		移植外科	◎	休	◎	◎	◎	
		小児科	◎	◎	◎	◎	◎	
	2階	D	糖尿病・代謝・内分泌内科	◎	◎	◎	◎	◎
			乳腺・内分泌外科	◎	◎	◎	◎	休
			病理診断科	休	休	休	休	◎
		E	血液内科	◎	再	◎	◎	◎
			膠原病内科	◎	再	再	再	◎
腎臓内科			◎	◎	◎	◎	◎	
F		呼吸器内科	◎	◎	◎	再 AMのみ	◎	
		消化器内科	◎	◎	◎	◎	◎	
		呼吸器外科	休	◎	休	◎	◎	
		消化器外科	◎	◎	◎	◎	◎	
G		皮膚科	◎	再	◎	◎	◎	
		形成・再建科	休	休	◎	◎	休	
3階	H 歯科口腔外科	◎	◎	◎	◎	◎		
	I 眼科	◎	◎	休	◎	特再		
	J 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	◎	休	◎	休	◎		
		産科	◎	休	◎	再	◎	
	L 泌尿器科	休	◎	休	◎	◎		
		画像診断・治療科	◎	休	◎	休	◎	
	4 M 神経精神科	◎	休	◎	◎	◎		
	中央診療棟	B1階 放射線治療科	◎	◎	◎	◎	◎	
2階 リハビリテーション科		休	◎	休	◎	◎		

熊本病院は高度医療を提供する「特定機能病院」として厚生労働省から認証を受けています。地域医療機関との分業を行なうため、原則としてかかりつけ医(他の医療機関)の紹介状が必要です。円滑な診療のために紹介状をご持参ください。紹介状がない場合でも受診できますが、初診の際に「保険外併用療養費(選定療養)」として5,500円(自費、令和元年10月現在)をご負担いただきます。

※予約について、お尋ねになりたい場合は、下記にご連絡ください。

外来予約センター TEL 096-373-5973

新型コロナウイルス感染症の流行状況に応じて、掲載内容に変更が生じる可能性があります。最新情報は熊本病院HPをご確認ください

再開整備完了のお知らせ

1999年度に開始した本院の再開整備が、2021年9月30日をもって完了致しました。

再開整備期間中は、本院をご利用の方々、地域の皆様方にご迷惑とご不便をお掛けしたことをお詫び申し上げますと共に、ご理解とご協力を頂きましたことを心より御礼申し上げます。



院内案内



病棟案内

【西病棟】	【東病棟】
耳鼻咽喉科・頭頸部外科、血液内科、膠原病内科	12F 院内学級、多目的室、院内図書室
血液内科、膠原病内科	11F 呼吸器内科、呼吸器外科、感染病床
泌尿器科、皮膚科、形成・再建科	10F 歯科口腔外科、泌尿器科
脳神経内科、糖尿病・代謝・内分泌内科	9F 眼科、糖尿病病床、救急部
小児科、総合周産期母子医療センター(NICU, GCU)	8F 小児外科、移植外科、呼吸器外科、小児科、緩和ケア病床
総合周産期母子医療センター(産科, MFICU)	7F 婦人科、乳腺・内分泌外科
ICU、腎・血液浄化療法センター	6F 心臓血管外科, HCU
脳神経外科、画像診断・治療科, SCU	5F 循環器内科, CCU
消化器外科、腎臓内科	4F 消化器外科
R1	3F 消化器内科
神経精神科	2F 整形外科、救急部
栄養管理室、栄養相談室、防災センター	1F 薬剤部、売店、美容室

交通案内

- 『熊本駅』からバスに乗り、『大学病院前』下車
 JR熊本駅 所要時間約10分 → 熊本大学病院
- 『桜町バスターミナル』からバスに乗り、『大学病院前』下車
 桜町バスターミナル 所要時間約10分 → 熊本大学病院
- 『阿蘇くまもと空港』からリムジンバスに乗り、『桜町バスターミナル』下車
 『桜町バスターミナル』からバスに乗り、『大学病院前』下車 所要時間約70分
- 九州自動車道 熊本インター出口
 国道57号線を熊本駅方面(産業道路)へ右折 所要時間約30分



熊本大学病院 〒860-8556 熊本市中央区本荘1丁目1番1号
 TEL (096) 344-2111(代) FAX (096) 373-5906
<https://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp/>